茗渓会公開講座　「単語の並べ方」

平成 26 年 6 月 21 日（土）
2 時～3 時半（於：茗渓会館）

講師　（藤原保明）プロフィール
略歴：東京教育大学(現・筑波大学)大学院修士課程修了、熊本大学・筑波大学助教授、ロンドン大学客員研究員、筑波大学大学院教授を経て、現在は聖徳大学教授・文学部長、筑波大学名誉教授、文学博士。
専門分野：英語学（英語史、音韻論、韻律論、音声学、語形成、統語論、など）
主要著書・訳書：『古英詩韻律研究』(渓水社)、『古英語の初歩』(英潮社)、『英語の語形成』(英潮社)、『言葉をさかのぼる』(開拓社)、『古英詩の世界』(筑波大学)、『中世の食生活』(法政大学 出版会)
高校英語教科書：*Milestone English Reading* (啓林館), *Revised Milestone English Reading* (啓林館)
記念論集：『言葉の絆』(開拓社)[還暦記念]、*Tsukuba English Studies* Vol. 27 (筑波英語学会)[退職記念]

はじめに

キーワード：　gold and silver「金と銀」、heaven and earth「天（と）地、おや！」、to and fro「あちこち」、trick or treat「いたずらかお菓子か」；「A and B」または「A or B」という形式をとる「等位句」(coordinated phrase)；「凍結句」(freeze)

1. 英語の等位表現の語順の原則

キーワード：　イギリスの小説家 George Orwell (1903-50) の中編小説 *Animal Farm* 『動物農場』(1945 年刊)；「A and B」または「A or B」という形式の句；She *jumped* and *slipped* on the ice.；動詞の順序は、動詞の意味や語の構造に依るのではなく、動作や状態の順序によって左右される；『動物農場』で用いられている等位句：43 例；等位句の構成素の語順；基準の設定とグループ分け；括弧内の数字

(1) bit and spur「馬はみと拍車」、body and soul「全身全霊」、by and large「全般的に見て」、chaff and mangels「切り藁と砂糖大根」、clever or simple「利口か単純か」、comfort and dignity「安心感と威厳」、correct and original、cows and horses、day and night「昼夜を問わず」(=night and day)、ducks and hens (cf. hens and ducks (2))、external and internal、friends and enemies、geese and turkeys、grain and meal「穀類と穀粉」、hay and corn「干し草と穀類」、here and now「直ちに」、hoof and horn「ひずめと角」、hunger and overwork「空腹感と過労」、idle and dishonest「怠慢で不誠実な」、manes and tails「たてがみと尻尾」、misery and slavery「悲惨さと苦役」、oats and hay (2)、old and toothless、once or twice「1~2 度、ごくたまに、数回」、picks and crowbars「つるはしとバール」、pigs and lambs、pushing and pulling、rain or shine「何があっても」、rats and rabbits、red and black、rich and free、thick and green、sheep and cows、sleet and snow、slowly and mournfully、sooner or later (=soon or late)「遅かれ早かれ」、support and pleasure、terror and slaughter、to and fro「あちこち」(5)、vanity and ambition「虚栄心と野望」、weak or strong、wheat and barley「小麦と大麦」、wise and benevolent「賢くて情け深い」

キーワード：　分類方法：構成素の音節数；等位句の 2 つの語；最初の語よりも 2 番目の語の方

が音節数が多い； 2 つの語の音節数が同じ場合；最初の語の方が 2 番目の語よりも音節数が多くなる場合；等位句の構成素の語順；語の長さ

(2) a. A < B (=14 例)

chaff and mangels、comfort and dignity、correct and original、cows and horses、friends and enemies、geese and turkeys、hunger and overwork、idle and dishonest、old and toothless、picks and crowbars、rats and rabbits、slowly and mournfully、wheat and barley、wise and benevolent

b. A = B (=28 例)

bit and spur、by and large、clever or simple、day and night (=night and day)、ducks and hens (cf. hens and ducks (2))、external and internal、grain and meal、hay and corn、here and now、hoof and horn、manes and tails、misery and slavery、oats and hay (2)、once or twice、pigs and lambs、pushing and pulling、rain or shine、red and black、rich and free、thick and green、sheep and cows、sleet and snow、sooner or later (=soon or late)、support and pleasure、terror and slaughter、to and fro (5)、vanity and ambition、weak or strong

c. A > B (=1 例)

body and soul

2. 言語音の聞こえ度と音節

キーワード： clever or simple という句； [símpl] と 2 音節語の clever ；John C. Wells ； *Longman Pronunciation Dictionary* (2008, 3rd Edition, p. 743) ； ['sɪmp ᵊl] ；言語音 (speech sound) ；音波 (sound wave) ；音の強さ、高さ、長さ；聞こえやすい音とそうではない音；母音は子音よりも聞こえやすい；子音は阻害音（閉鎖音・摩擦音・破擦音）、鼻音、側音、流音、渡り音の順に聞こえ度が高くなる；母音は口の開け方の大きい開母音→口の開け方が狭い閉母音の順に聞こえ度が低くなる

(3) a. 母音 (vowel=V) :

i) 短母音 : /ɪ, e, æ, ʌ, ɒ, ʊ, ə/

ii) 長母音 : /iː, ɑː, ɔː, uː, ɜː/

iii) 二重母音 : /eɪ, aɪ, ɔɪ, əʊ, aʊ, ɪə, eə, ʊə/

iv) 開母音: /æ, ɛ, ɑ/ 閉母音: /ɪ, ɔ, ʊ/)

b. 子音 (consonant=C)

i) 阻害音 (obstruent=O)

閉鎖音 (stop) : / p, b, t, d, k, g/

破擦音 (affricate) : /tʃ, dʒ/

摩擦音 (fricative) : /θ, ð, f, v, s, z, ʃ, ʒ, h/

ii) 鼻音 (nasal=N) : /m, n, ŋ/

iii) 流音 (liquid=L) : /l, r/

iv) 渡り音 (glide=G) : /j, w/

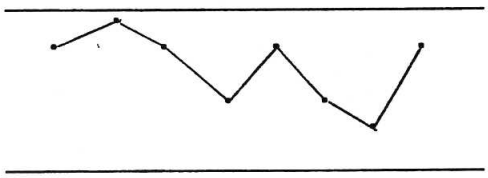
c. 聞こえ度 (sonority) の階級 (右に行くほど聞こえ度が高まる)

O (阻害音 : 閉鎖音→破擦音→摩擦音)→ N(鼻音)→ L(流音)→ G(渡り音)→ V(母音)

キーワード : 聞こえ度の階級 ; Manchester ; 前後の音よりも聞こえ度が高くなる部分 (=peak「中心部」) ; この語は 3 音節から成る ; simple は 2 音節語とみなせる

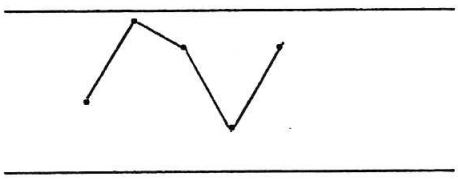
(4) 聞こえ度の階級と音節

(a) Manchester



m æ n tʃ e s t ə

(b) simple



s ɪ m p l

3. 音節数が同じ等位句の構成素の語順

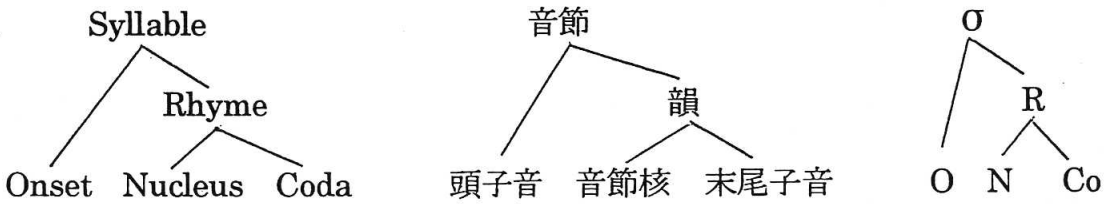
キーワード : 構成素の語順に関わる原則 ; 音節数が同じ例をそれぞれ 1 つのグループに入れる ; 音節の構造についての理解

(5) a. bit and spur, day and night, ducks and hens, grain and meal, hay and corn, here and now, hoof and horn, manes and tails, oats and hay, once or twice, pigs and lambs, pushing and pulling, rain or shine, red and black, rich and free, thick and green, sheep and cows, sleet and snow, to and fro, weak or strong

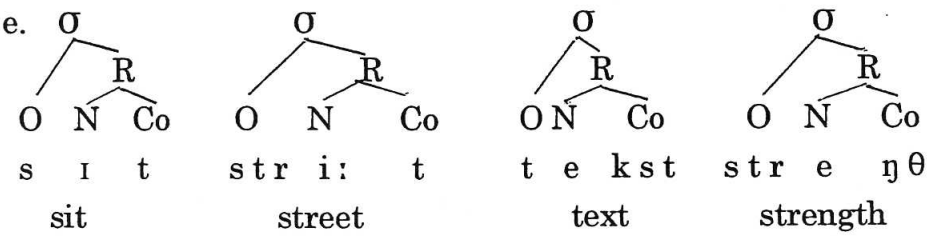
b. sooner or later, support and pleasure, terror and slaughter

c. external and internal, misery and slavery, vanity and ambition

d.



e.

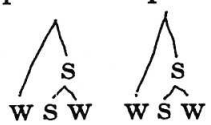


キーワード : 聞こえ度の階級と音節構造 ; 等位句の構成素の音節構造を詳細に示す ; s (=strong) と

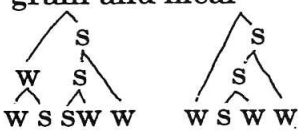
w (=weak) は隣接音との相対的な聞こえ度を示す；(6a) と同じタイプの語は 28 例中 14 例ある；音節数の多い構成素が右側に来る等位句と同じ構造である；『動物農場』の 43 例の等位句のうち 27 例 (=62.80%) では、音節数がより多いか、それとも音節構造がより複雑な語を 2 番目の位置に置くという原則がある；2 つの構成素の音節数と音節構造の複雑度が同じとなる場合が 12 例；音節数または音節構造の複雑な語が最初の位置を占める場合が 4 例；合計 16 例 (=全体の 37.21%) は原則に合致しない；音節の構造の複雑度が等位句の語順を決定するという方法； Fujiwara (1997)

(6) a. red and black

b. push and pull



c. grain and meal



キーワード： 母音と子音の音声上の特徴から、語順に関わる原則を探る；語頭の子音 [r] と [ʃ] は聞こえ度の大きい順に並んでいる；語尾の子音 [ʃ] と [l]、[f] と [n] はそれぞれ聞こえ度が「小さい～大きい」という順に並んでいる； Ross (1982) が提案した規則； Ross の規則を採用すると、合計 30 例 (30/43=69.77%) の等位句において構成素が原則に従って並べられている

(7) a. rain or shine　　b. push and pull　　c. hoof and horn

rem		ʃam		pʊʃ		pʊl		huːf		hɔːn
[r-]	~	[ʃ-]		[-ʃ]		[-l]		[-f]		[-n]

4. 等位句と凍結句

キーワード：動物を 2 種類並べた表現や、(8b) のように動物の体の部位や飼料を並べた句；英語の構造上の特徴から語の順番を説明できないもの；言語構造以外の原則に従っている可能性；牧畜業者；複数の動物の並べ方；動物の餌の種類、動物の体の部分、動物の装備品を表す語の優劣

(8) a. sheep and cows, rats and rabbits, cows and horses, geese and turkeys, pigs and lambs, ducks and hens (hens and ducks)

b. bit and spur, wheat and barley, hay and corn, oats and hay, manes and tails, hoof and horn, chaff and mangels, grain and meal

キーワード： 英語の等位句； 3 つのグループに分ける；日本語の「鍋と蓋」；単独でも存在しうるが、本来は一組のものとして有効に機能し、主たるものが句の最初の位置を占める場合；順序や価値判断が社会通念として定まっていて、好ましいものを最初の位置におく場合；空間の捉え方として定まっていて、その順序に単語を配置する場合；これらの順序は英語の音構造に優先する；body and soul の語順は；音節数からすると原則に反する；「鍋と蓋」の原則に即したもの

(9) a. body and soul「全身全霊、身も心も」、bow and arrow、boys and girls、bread and butter、east and west、far and wide「あちこちと」、father and son、fish and chips、friends and foes「敵味方」、gold and silver、heaven and earth、in and out「出たり入ったり」、ladies and gentlemen、men and women、north and south、off and on (米) ~ on and off (英)「断続的に」、

pen and ink、rain or shine「照っても降っても」、right and left「左右、四方八方へ」、right or wrong「良かれ悪しかれ、是非とも」、up and down 「上がったり下がったり」、win or lose 「勝っても負けても」、Yes and no. 「どちらとも言えないね。」、yes or no「イエスかノー」

b. i. body and soul、bow and arrow、bread and butter、fish and chips、pen and ink
ii. boys and girls、father and son、men and women、(cf. (9c) ladies and gentlemen)、friends and foes、gold and silver、heaven and earth、right or wrong、right and left
iii. east and west、north and south、far and wide、in and out、on and off、up and down

4. 日本語の等位句とモーラ

キーワード： 英語の語順が日本語の場合には正反対になっている場合； 24 例中 7 例ある；日本語の場合にはなぜ英語と正反対の語順が生じるのか

(10) a. friends and foes「敵味方(の区別なく)」、in and out「出たり入ったり」、ladies and gentlemen「紳士諸君、並びに御婦人方、みなさん」、rain or shine「照っても降っても」、right and left「左右(さゆう)、みぎやひだりの旦那様」、north and south「南北（問題）、きたみなみ」、east and west「西東（にしひがし）」 *英語では東西南北は north, south, east, west の順が一般的。

b. body and soul「全身全霊、身も心も」、up and down 「上がったり下がったり」、win or lose 「勝っても負けても」、

キーワード： リズムの単位；言葉の長さを測る単位の違い；英語の場合には音節がリズムの単位；英語と日本語のリズムの単位が決定的に異なる；英語はそれぞれの音節がリズムの単位“σ”となるのに対して、日本語は「ん」を除いて、母音がなければリズムの単位が形成されない； 1 音節語であっても、子音は次に母音が来るのが前提であるので、[s] の次には母音がきて「ス」となり、[mi] はそのまま「ミ」となるが、最後の [θ] はそのままでは語が終われないから、母音を添えて「ス」となる； m は日本語のリズムの単位である「モーラ」(mora) の m を表す。モーラは母音が中心となり、長さの単位を形成していて、母音だけでも、子音+母音でも 1 モーラとなる；母音の後の [n] (=[N]) は例外的に 1 モーラを形成する

(11) a. 1 音節語（強） : dog, bird, three
b. 2 音節語（強弱） : mother, leader, honest
c. 3 音節語（強弱弱） : beautiful, wonderful, excellent

d.	Smith	test	text	dragon	wonderful
英 語	[smɪθ]	[test]	[tekst]	['drægən]	['wʌndəfᵊl]
	σ	σ	σ	σ σ	σ σσ
日本語	スミス	テスト	テキスト	ドラゴン	ワンダフル
	m m m	m m m	m m m m	m m m m	m m m m m

e. モーラ (mora) :
i. 母音（あ、い、う、え、お =1 モーラ)

ii. 子音＋母音（か、き、く、け、こ、さ、し、．．．＝　1モーラ）
iii.「ん」([N]＝1モーラ)
注意；[n]＋母音＝1モーラ（「名」 [na]）、母音＋[N]＝2モーラ（「案」[aN]）

キーワード：　モーラを用いると英語の等位句の場合と語順が正反対になったり、英語と同じ語順であったりする例がきれいに説明できる；単語の意味ではなく、モーラの数の少ない方が最初に来て、多い方が後になる。モーラの数が同じ場合には、意味の上で勝っているものが先に来る。

(10) a. **friends and foes**「敵味方(の区別なく)」→敵味方（てき・みかた＝2・3)
in and out「出たり入ったり」→出る・入る（でる・はいる＝2・3)
rain or shine「照っても降っても」→照る・降る（てる・ふる=2・2)
right and left「左右(さゆう)」→左・右（さ・ゆう＝1・2）、右・左（みぎ・ひだり=2・3)
north and south「南北（問題）、きたみなみ」→南・北（なん・ぼく=2・2）、
北・南（きた・みなみ=2・3)
east and west「西東（にしひがし）」→西・東（にし・ひがし=2・3)
b. **body and soul**「全身全霊、身も心も」→身・心（み・こころ=1・3)
up and down　「上がったり下がったり」→上がる・下がる（あがる・さがる=3・3)
win or lose　「勝っても負けても」→勝つ・負ける（かつ・まける=2・3)

まとめ

英語も日本語も、単語はただ雑然と並んでいるのではなく、言語特有の原則に従い、その原則は言語の構造に根差している。社会通念上の優劣は言語構造上の原則より優先されることが多い。

参考文献

Orwell, George. (1971) *Animal Farm: A Fairy Story*, Secker & Warburg, London.
Fujiwara, Yasuaki (1997) "Word Order in Old English Freezes," *Studies in English Linguistics: A festschrift for Akira Ota on the Occasion of His Eightieth Birthday*, ed. by Masatomo Ukaji, et. al, Taishukan, Tokyo.
藤原保明（2000）「等位表現における語順について」『エネルゲイア』25号
Ross, John R. (1982) "The Sound of Meaning," *Linguistics in the Morning Calm*, ed. by The Linguistic Society of Korea, 275-290, Hanshin, Seoul.
Wells, J. C. (2008) *Longman Pronunciation Dictionary*, 3rd Edition, Pearson Education, Harlow.